

令和5年度シラバス (情報)				10 新潟県立新潟向陽高等学校			
教科名	情報	科目名	情報 I	履修単位数	2	履修年次	1 年次
使用教科書	情報 I N e x t (数研出版)						
副教材等	情報 I N e x t サポートノート (数研出版)						
1 学習目標							
<p>(1)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。</p> <p>(2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3)情報と情報技術を活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>							
2 指導の重点							
<p>高卒ですぐに就職する場合も、大学や専門学校を経て就職する場合も、職場にはコンピュータが必ずある昨今、手元を見ないで、文字を打つ「タッチ・タイピング」の習得は必須です。</p> <p>教科書で情報に関する様々な知識等を学習しながら、ワードによるタッチ・タイピングの習得および習熟を目指します。</p> <p>また、eclipseを使用しjavaでのプログラムや、パワーポイントによる作品も作ります。</p>							
3 評価の観点の趣旨							
<p>知識・技能</p> <p>効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に用いている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>情報と情報技術を情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に活用し、自ら評価して改善しようとしている。</p>							
4 評価基準と評価方法							
評価は次の観点から行います。							
	知識・技能 a		思考・判断・表現 b		主体的に学習に取り組む態度 c		
評価の観点	情報関係の様々な知識と、ワードにおけるタッチ・タイピングの技能を身につけるようにしている。		問題の発見や解決能力、情報活用の能力を高め、実社会に役立てられる実践力を身につけようとしている。		情報と情報技術を情報社会との関わりについて考えながら、自ら評価して改善しようとしている。		
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・ワードの速度の実技 などから評価します。		以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・情報モラルコンテストの作品 などから評価します。		以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・プレゼンテーションの作品 などから評価します。		
5 学習計画							
月	単元名	授業 時数	学習項目	学習活動	評価の観点	評価方法	
4 5	1 情報社会の問題 解決	4	情報とメディア	情報の特徴と問題解決について学習する	a	サポートノート	
		8	情報社会における法とセキュリィー	各種セキュリィー対策を詳細に学習し、情報モラルコンテストに応募する作品を作る。	b	作品の評価	
		4	情報技術が社会に及ぼす影響	情報技術の発展と適切な活用を学習する	a	サポートノート	
6	2 コミュニケーションと 情報デザイン	4	情報のデジタル表現	デジタル情報の特徴と表現を学習する	a	サポートノート	
		4	コミュニケーション手段の発展と特徴	コミュニケーション手段の発達を学習する	a	サポートノート	
7	定期テスト (筆記およびワードの速度の実技テスト)				a b		
9		4	情報デザイン	効果的簡情報デザインを学習する	a	サポートノート	
		8	プレゼンテーション	プレゼンテーションの作品を作る	c	作品の評価	

10	3 コンピュータとプログラミング	4	コンピュータのしくみ	ハードウェアとソフトウェア	a		サポートノート	
		11	10	プログラミング	eclipseを使用し、簡単なjavaのプログラミングを作る		c	作品の評価
					scratchを使用し、簡単なscratchのプログラミングを作る		c	作品の評価
12	4	モデル化とシミュレーション	モデル化とシミュレーション	a			サポートノート	
定期テスト（筆記およびワードの速度の実技テスト）					a	b		
1 2	4 情報通信ネットワークとデータの活用	4	ネットワークのしくみ	通信プロトコルとパケット通信、IPアドレスとドメイン名、WWWと電子メール、情報の暗号化を学習する	a		サポートノート	
		8	データベース	htmlを使用し、簡単なWebページを作成する		b c	作品の評価	
		4	データの分析	さまざまなデータの分析を学習する	a			サポートノート
定期テスト（筆記およびワードの速度の実技テスト）					a	b		
計70時間（50分授業）								
6	観点別評価を総括して評価する際の比率							
	3つの観点の比率	知識・技能 40%	思考・判断・表現 30%	主体的に学習に取り組む態度 30%				
7	課題・提出物等 <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の最初に10分間ワードで速度を練習し保存したものが提出物になります。 ・毎学期ともに、定期考査の前後に、授業中にワードの速度の実技テストを実施します。 ・サポートノートは、毎学期の終わりに提出してもらいます。 ・各種の作品は提出期日を厳守してください。 							
8	担当者からの一言 <p>いままで、コンピューターにあまり触れたことがない人でも、誰でもタッチ・タイピング（手元を見ないで打つ方法）ができるようになります。また、パワーポイントやプログラミングなど、様々な実技の学習もします。</p>							